朝倉工業団地遺跡群No.６

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３．９

前橋市教育委員会
恵産業株式会社
有限会社毛野考古学研究所

朝倉工業団地遺跡群No.６

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３.９

前橋市教育委員会
恵産業株式会社
有限会社毛野考古学研究所

明治前期測量　２万分１　フランス式彩色地図
― 第一軍管地方二万分一迅速測図原図覆刻版 ―

例　言

1　本書は、恵産業株式会社の本社・倉庫新築工事に伴い実施した朝倉工業団地遺跡群№.６の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、恵産業株式会社の委託を受け、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は、同研究所員長井正欣、井上 太、小此木真理である。

3　発掘調査・整理作業の実施期間は、平成25年５月20日～平成25年９月30日である。

4　本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

所在地地番：前橋市下佐鳥町１００３番２　　面積：６５２㎡

遺跡番号：００８０５　　略称：２４Ｇ７９

5　本調査の遺構測量は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

6　本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、小此木が担当した。

7　本書の執筆は、Ⅰを福田貫之（前橋市教育委員会）、その他を小此木が担当した。

8　調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

9　発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略。）

［ 発掘調査 ］　井口ヒロ子　狩野友好　齋藤清一　志村久子　高橋道敏　竹中美保子　竹生正明
勅使川原幸枝　永井述史　森山恵子　森山孝男　山本良太

［ 整理作業 ］　磯 洋子　小野沢絹子　樺沢美枝　合田幸子　下條真美代　竹中美保子

10　発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、下記の機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（順不同・敬称略）

ＪＴ空撮　山下工業株式会社

凡　例

1　挿図の座標北には、世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。

2　等高線や断面図中における水準値は、海抜標高を示す（単位：m）。

3　掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各挿図中にスケールで表示した。

4　グリッドは、原点（X=39,500･Y=－66,900）より西から東へＸ０、Ｘ１…、北から南へＹ０、Ｙ１…と付した。

5　遺構断面図及び遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人日本色彩研究所監修）を使用した。

6　本書中のテフラ（火山噴出物）の呼称は、下記のとおりである。

Ａｓ－Ａ：1783年（天明３年）に噴出した浅間Ａテフラ。

Ａｓ－Ｂ：1108年（天仁元年）に噴出した浅間Ｂテフラ。

Ｈｒ－ＦＡ：６世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ。

Ｈｒ－ＦＡ層については、現地調査の段階でＨｒ－ＦＡの均一な堆積が認められず、一次降下灰と降下後の洪水層との明確な判別ができなかったため、その２つを総称してＨｒ－ＦＡとする。

Ａｓ－Ｃ：３世紀末～４世紀初頭に噴出した浅間Ｃテフラ。

7　本書掲載第１図には、国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」･「宇都宮」、第２図に同院発行の1/25,000地勢図「前橋」･「高崎」、第３図には「前橋市都市計画図」1/2,500を一部加工して使用した。

8　表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

9　遺構略称は、W…溝、D…土坑、Ⅰ…井戸、P…ピットである。

目　　次

例言・凡例
目次
挿図目次・表目次・写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　地理的環境 …… 1
　2　歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 4
　1　調査の方法 …… 4
　2　調査の経過 …… 5
Ⅳ　遺跡の概要 …… 5
　1　遺構・遺物の概要 …… 5
　2　基本層序 …… 5
Ⅴ　検出遺構 …… 6
　1　平安時代末期～中世以降 …… 6
　2　古墳時代～平安時代 ……12
Ⅵ　出土遺物 ……17
Ⅶ　まとめ ……17
写真図版
抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺の遺跡 …… 3
第３図　調査区配置図 …… 4
第４図　基本層序図 …… 5
第５図　Ａｓ－Ｂ層下水田跡 …… 8
第６図　調査区全体図（平安時代末期～中世以降）
…… 9
第７図　Ｗ－５・16・17号溝、Ｄ－１号土坑
……10
第８図　４区　Ｗ－５・９～11・18号溝 ……11
第９図　Ｉ－１号井戸、Ｄ－２・３号土坑 ……12
第10図　調査区全体図（古墳時代～平安時代）…15
第11図　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡（３区）
Ｗ－１・２・４～８・14・15号溝、
畝状遺構 ……16
第12図　出土遺物実測図 ……17
第13図　朝倉工業団地遺跡群における
古墳時代の水田跡確認範囲 ……18

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 2
第２表　Ａｓ－Ｂ層下水田計測表 …… 8
第３表　出土遺物観察表 ……17

写真図版目次

Ａｓ－Ｂ層下水田跡 畦畔検出作業
ＰＬ．１
調査地と端気川(南西から)
調査区全景(左が北)
ＰＬ．２
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　全景(２・３区、手前が北)
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　区画①～④(東から)
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　区画①②間の水口(南西から)
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　畦畔２　土層断面(西から)
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　畦畔４　土層断面(西から)
ＰＬ．３
４区　全景(左下が北)
Ｉ－１号井戸、Ｄ－３号土坑（東から）
Ｗ－９号溝　全景(東から)
Ｗ－11号溝　全景(東から)
Ｗ－18号溝　全景(東から)
２・３区　全景(左が北)
ＰＬ．４
Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡　全景(南西から)
Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡　全景(南から)
Ｗ－８号溝　全景（西から）
Ｗ－８号溝　土層断面　Ｂ－Ｂ’(東から)
Ｗ－３号溝　全景(西から)
畝状遺構(北から)
出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成 23 年１月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施した。各々の区画内については進出する各社と協議を行ない現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

平成 25 年２月 14 日、恵産業株式会社より埋蔵文化財の取り扱いについて問合せがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなった。平成 25 年５月 15 日付けで恵産業株式会社と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約を締結し、同年５月 16 日付けで恵産業株式会社、有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査に関する協定書が締結され、同年５月 20 日から現地調査が開始された。

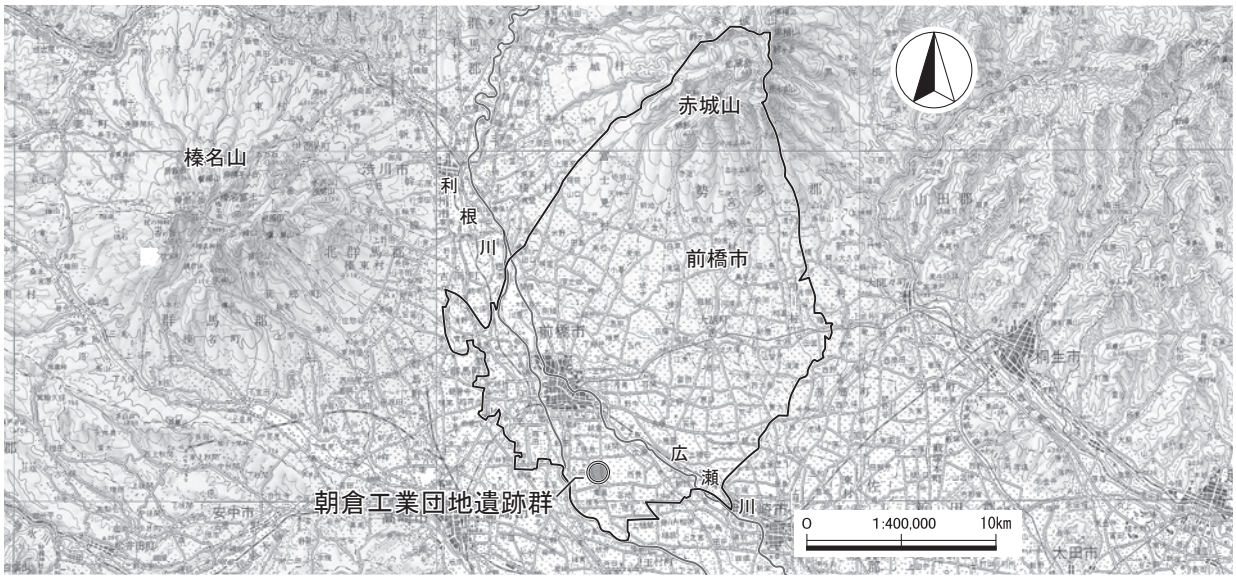
Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

本遺跡群は、群馬県前橋市の南端に位置し、北西には榛名山、北東には赤城山を望むことができる。約２㎞西側には利根川が北西から南東方向に流れ、東側には広瀬川や桃ノ木川をはじめとする多くの河川が、流下している。

遺跡が立地する前橋台地は、約２万年前の浅間山噴火を起源とする山体崩壊にともなう「前橋泥流」よって形成された。この泥流は榛名山と赤城山間を抜けて関東平野に流出する部分に広がって堆積し、扇状地性台地となった。台地上には、その後の河川の影響によって多くの自然堤防と後背湿地が形成されている。

本遺跡群の位置する下佐鳥町周辺にも、端気川や藤川といった小河川の影響で、自然堤防と後背湿地が形成されており、現在は東側に広大な水田地帯が広がっている。また、端気川は前橋台地北部の湿地帯に起源をもつ自然流路で、その起源は古墳時代にまでさかのぼり、水田開発に利用されてきたと考えられている。



第１図　遺跡の位置

2　歴史的環境

本遺跡周辺には縄文・弥生時代の遺跡は少なく、橲島川端遺跡（21）、徳丸仲田遺跡（57）で弥生時代後期の住居跡や遺物が確認されている。

古墳時代になると遺跡数が増加し、多数の集落が自然堤防や微高地上に立地する。前期は、公田池尻遺跡（27）、徳丸仲田遺跡（57）等で確認され、横手早稲田遺跡（36）・横手湯田遺跡（43）では周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。中期は横手早稲田遺跡・横手湯田遺跡、後期は公田東遺跡（23）、下佐鳥遺跡（24）、川曲遺跡（25）、公田池尻遺跡（27）で確認されている。前期の集落は後期になると水田耕作地として利用されるような地域にも営まれ、中期になると集落は減少する。そして後期になるとふたたび増加する状況がみられる。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、様々な時期の水田跡や畠跡が調査されている。弥生後期～古墳前期ではＡｓ－Ｃ層下水田跡、４世紀初頭以降のＡｓ－Ｃ混入土層下水田跡、後期では６世紀初頭のＨｒ－ＦＡ層下水田跡やＨｒ－ＦＡ泥流層下水田跡が、南部拠点遺跡群（44・58・60 ～ 63）等で確認されている。また水田の開発に伴って徳丸仲田Ⅱ遺跡（57）では前期に開削された堰を伴った大規模な用水路が発見され、この水路は下流の砂町遺跡まで約２㎞にわたり、継続する可能性が指摘されている。

これらの集落や生産活動に関わる有力者層の墳墓群として、広瀬川右岸に朝倉・広瀬古墳群が存在している。この古墳群は４～７世紀にかけての県内最大級の古墳群で、昭和 10 年に行われた県下一斉古墳調査では、154 基の古墳が確認されている。相川考古館に収蔵されている国指定重要文化財の弾琴男子像埴輪は、同古墳群からの出土と想定されている。

奈良・平安時代には集落は引き続き微高地上に占地し、公田東遺跡、公田池尻遺跡、西田遺跡（49）、西田Ⅱ遺跡（50）、西田Ⅵ遺跡（51）等で確認されている。

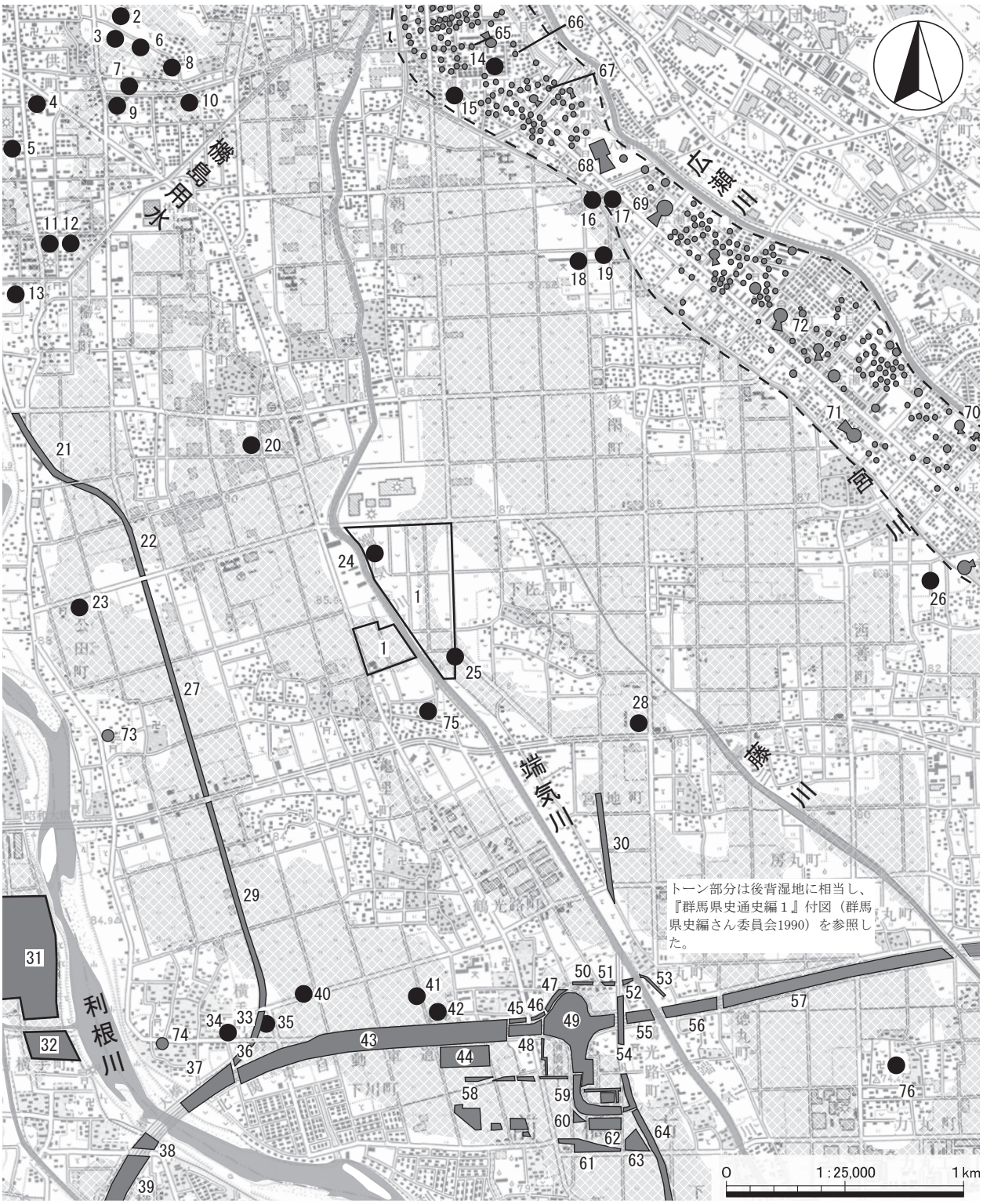
後背湿地では、天仁元（1108）年に浅間山の噴火で埋没したＡｓ－Ｂ層下水田跡が、南部拠点遺跡群（44・58･60 ～ 63）等多くの遺跡で確認されている。これらの水田は一町約 109 ｍ四方のいわゆる「条里地割」に沿ったものが多いことが明らかになっている。

中近世には、微高地上に環濠遺跡群が多数確認される。周辺では那波郡を支配する那波氏の居城である力丸城（76）、宿阿内城（75）があり、他にも当該期の館跡や掘立柱建物跡、井戸跡などの遺構が確認されている。

第１表　周辺の遺跡一覧表　（福田・和久、2012 より）

遺構の種別／遺跡表示番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
古墳時代の水田跡	As－C 混土層				○		○							○		平安～中世の用水路跡							○					○					
	As－C 混土層上	○																															
	Hr－FA 層下	○					○															○	○					○		○		○	○
	Hr－FA 洪水層下																																
	Hr－FP 層下																															○	
	Hr－FP 泥流層下																																
古墳時代の竪穴住居跡		後	前後		前		前							前			前	後		後		前	後		後	後		前後					
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	
奈良・平安時代の竪穴住居跡		○	○	○	○		○	○									○			○			○				○	○					
中・近世の水田跡	As－B 混土層																						○					○		○			
	As－A 層下																						○										
	復旧溝など																																
中・近世その他の遺構	館跡など	○			○																		○				○	○					
	火葬土坑	○																				○											
	土坑墓																													○			

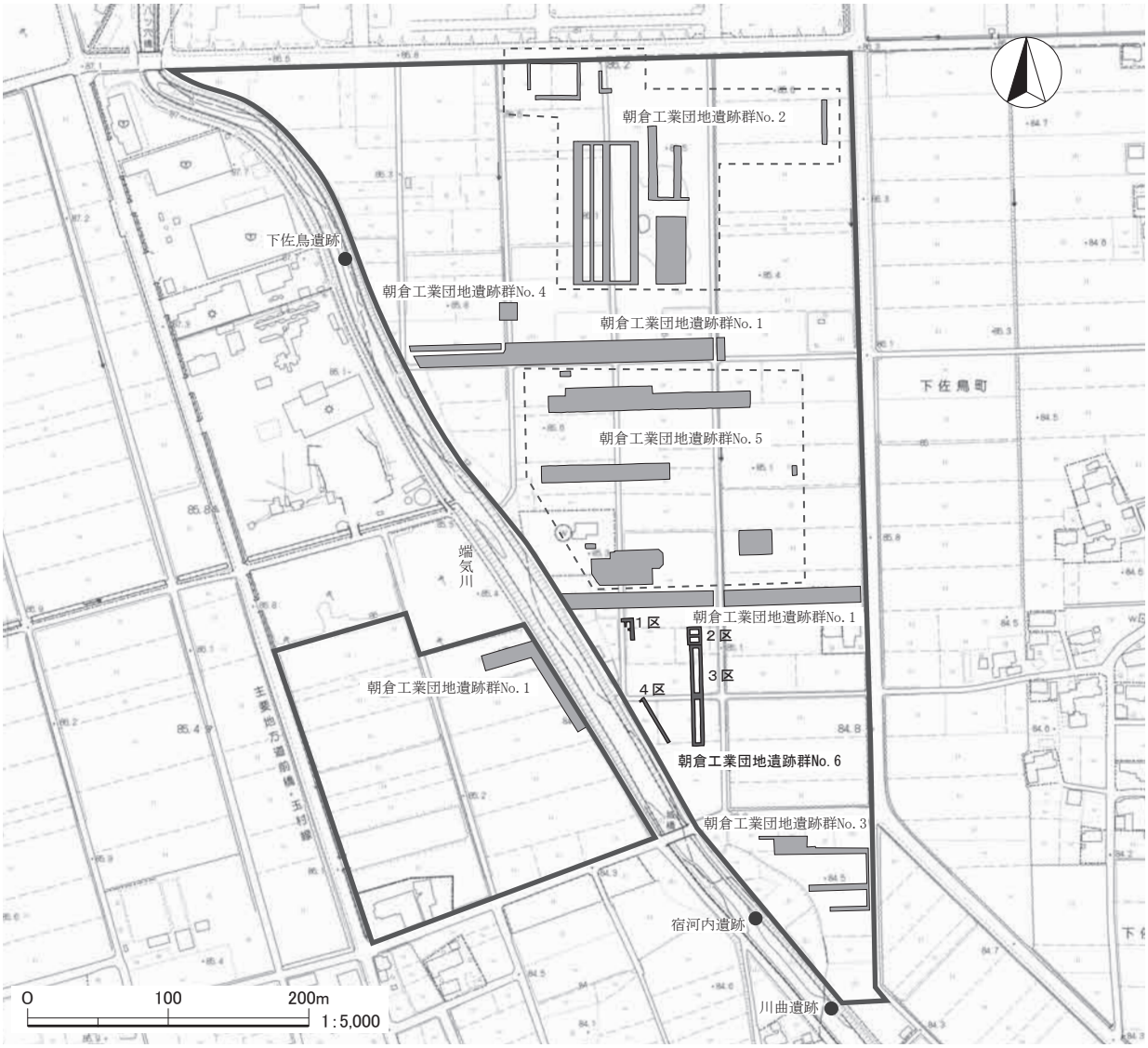
遺構の種別／遺跡表示番号		33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
古墳時代の水田跡	As－C 混土層							○									○	○							○	○							
	As－C 混土層上						○																										○
	Hr－FA 層下				○	○	○	○				○						○								○		○		○	○		
	Hr－FA 洪水層下												○																				
	Hr－FP 層下				○		○	○				○																					
	Hr－FP 泥流層下		○			○		○																									
古墳時代の竪穴住居跡					前中							前中														前							
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈良・平安時代の竪穴住居跡							○											○	○	○	○	○		○	○	○							
中・近世の水田跡	As－B 混土層	○		○	○			○				○				○																	
	As－A 層下						○																										
	復旧溝など	○			○	○	○	○				○												○				○					○
中・近世その他の遺構	館跡など					○	○	○	○			○				○	○	○				○		○	○	○		○					
	火葬土坑					○																											
	土坑墓					○	○										○	○						○	○								○



（福田・和久 2012 を一部改編）

1 朝倉工業団地遺跡群	12 東京安寺	23 公田東（調査会）	34 井戸南	45 村中Ⅱ	56 徳丸高堰・同Ⅱ	67 朝倉３号墳
2 六供東京安寺	13 棚島川端Ⅱ	24 下佐鳥	35 横手宮田Ⅱ	46 西田Ⅴ	57 徳丸仲田・同Ⅱ～Ⅳ	68 八幡山古墳
3 六供下堂木Ⅴ	14 長山	25 川曲	36 横手早稲田	47 西田Ⅲ	58 南部拠点地区遺跡群No. 3	69 天神山古墳
4 六供中京安寺	15 鎮守廻り	26 西善鍛冶屋	37 横手南川端	48 村中	59 下阿内壱町畑	70 亀塚山古墳
5 中大門	16 後閑団地	27 公田池尻	38 西横手遺跡群	49 西田	60 南部拠点地区遺跡群No. 6	71 上両家二子山古墳
6 六供下堂木Ⅱ	17 坊山	28 東田	39 宿横手三波川	50 西田Ⅱ	61 南部拠点地区遺跡群No. 1	72 大屋敷古墳
7 六供下堂木Ⅲ	18 後閑	29 亀里平塚	40 亀里銭面・同Ⅱ	51 西田Ⅵ	62 南部拠点地区遺跡群No. 5	73 下川渕３号墳
8 六供下堂木	19 後閑Ⅱ	30 宮地中田	41 亀里油面Ⅱ	52 鶴光路榎橋Ⅱ	63 南部拠点地区遺跡群No. 2	74 浅間神社古墳
9 六供下堂木Ⅳ	20 上佐鳥中原前・同Ⅱ	31 西横手遺跡群Ⅰ	42 鶴光路練引	53 徳丸高堰Ⅲ・同Ⅳ	64 下阿内前田	75 宿阿内城
10 六供遺跡群	21 棚島川端（事業団）	32 西横手遺跡群Ⅱ	43 横手湯田・同Ⅱ～Ⅵ	54 西田・西田Ⅳ	65 朝倉２号墳	76 力丸城
11 南京安寺	22 公田東（事業団）	33 横手宮田	44 南部拠点地区遺跡群No. 4	55 鶴光路榎橋	66 朝倉１号墳	

第２図　周辺の遺跡



第３図　調査区位置図

Ⅲ　調査の方法と経過

１　調査の方法

今回の発掘調査は、構造物の基礎部分に該当する 652 ㎡が対象である。調査区は１区から４区を設定し、主な調査対象はＡｓ－Ｂ層下の水田跡と、Ｈｒ－ＦＡ層下の水田跡等であり、一部の調査区は２面に及ぶ調査となった。調査面積は、１面目（Ａｓ－Ｂ層下）が 86.1 ㎡、２面目（Ｈｒ－ＦＡ層下）が 565.9 ㎡、合計 652 ㎡である。１面目の調査区では表土からＡｓ－Ｂ層の上部までをバックホーで掘削し、その後は人力で遺構の検出にあたった。２面目の調査区では、１面目の調査区以外は表土層からＨｒ－ＦＡ層上部までをバックホーで掘削し、その後は人力で遺構の精査にあたった。

検出された遺構は、時代などに関わらず検出順、種類毎に記号番号を付した。また調査区をまたがっていても同一遺構と確認した場合は、同じ遺構番号とした。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。遺構・遺物の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、遺構検出終了後に全体の空中写真撮影を実施し、個別遺構は 35 ㎜モノクロフィルム及びリバーサルフィルムとデジタルカメラで撮影した。遺構測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で 1/20 縮尺で実施した。

2　調査の経過

平成 25 年

5 月 20 日	プレハブ・簡易トイレ、発掘機材の搬入。重機による表土掘削の開始。
5 月 22 日～ 24 日	Ａｓ－Ｂ下調査面（２・３区）の遺構検出作業の実施。
5 月 27 日	Ａｓ－Ｂ下水田面の写真撮影。平面測量の実施。土層断面図の作成。
6 月 4 日～ 7 日	Ｈｒ－ＦＡ下調査面（１～４区）の遺構検出作業の開始。
6 月 11 日	調査区全体の空中写真撮影業務と平面測量の実施。土層断面図の作成。写真撮影。撤収作業。
6 月 14 日	現地にて前橋市教育委員会文化財保護課による完了検査。

Ⅳ　遺跡の概要

1　遺構・遺物の概要

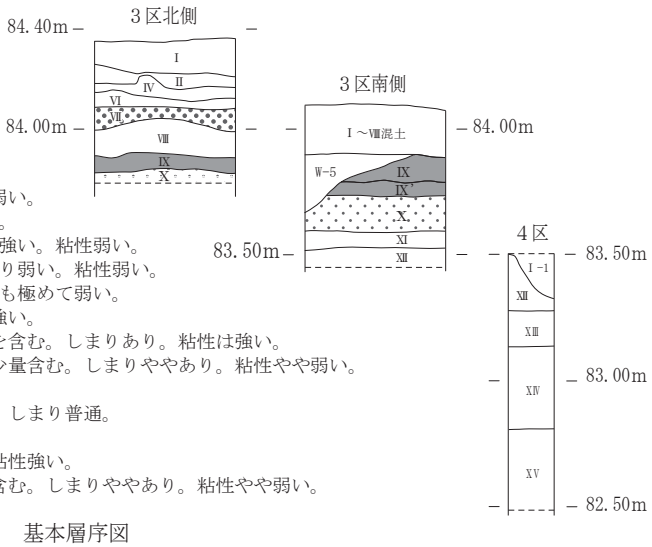
検出された遺構は、中世以降の溝跡７条、井戸跡１基、土坑３基、平安時代末期のＡｓ－Ｂ層直下の水田跡（２～３区）、古墳時代のＨｒ－ＦＡ層下の水田跡（３区）、畝状遺構１条（４区）、古墳時代～平安時代の溝跡 13 条、ピット 34 基である。

１面目の調査ではＡｓ－Ｂ層下の遺構確認を目的とし、水田跡を確認した。この水田跡はＡｓ－Ｂ層に覆われ、畦畔が良好に遺存していた。２面目の調査はＨｒ－ＦＡ層下の遺構確認を目的とし、古墳時代の水田跡や溝跡、同時に中世以降と推定される溝等の遺構を本確認面で調査している。

調査区で出土した遺物は少量で遺物収納箱１箱程度である。明確に遺構に伴い、器種や時期を判断できる遺物は数点である。遺物は主に３区と４区の溝跡から出土した。

2　基本層序

基本層序は朝倉工業団地遺跡群№.１に準拠した。ただし、調査区によって削平や撹乱の影響が大きく、土層の堆積状況は多様であった。２区から３区中央部にかけてはＡｓ－Ｂ軽石の一次堆積層であるⅦ層が良好に残存していたが、１区、３区南側、４区では認められなかった。１区と４区ではＨｒ－ＦＡ層であるⅨ層が削平されており、Ｘ層の上層にⅨ層とその上層が撹拌された土が堆積し、部分的にＨｒ－ＦＡ洪水土層が残存していた。また、３区と４区の一部では、Ⅸ層と想定される層の下にもう一層Ｈｒ－ＦＡ洪水土を含む層が確認され、これをⅨ’層とした。ⅫⅢ層以下は、３区・４区の堀跡及び井戸跡の掘方で確認された基本土層である。



土層説明

0	盛土層	
Ⅰ	灰黄褐色土	現表土。Ａｓ-Ａが混入。しまり強い。粘性弱い。
Ⅱ	にぶい黄褐色土	Ａｓ-Ａを中量混入。しまり強い。粘性弱い。
Ⅳ	灰黄褐色土	Ａｓ-Ａを中量、Ａｓ-Ｂを少量混入。しまり強い。粘性弱い。
Ⅵ	極暗褐色土	Ａｓ-Ｂを多量混入。鉄分をやや含む。しまり弱い。粘性弱い。
Ⅶ	褐灰色土	Ａｓ-Ｂ軽石の一次堆積層。しまり、粘性とも極めて弱い。
Ⅷ	黒褐色土	粘質土。鉄分あり。しまりややあり、粘性強い。
Ⅸ	明黄褐色土	粘質土。Ｈｒ-ＦＡ洪水層。多量のブロックを含む。しまりあり。粘性は強い。
Ⅸ′	にぶい黄橙色土	Hr-ＦＡ軽石粒を少量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土を少量含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
Ⅹ	黒褐色土	Ａｓ-Ｃ混入。しまりは普通、粘性は強い。
ⅪⅠ	黒褐色土層	粘性土。鉄分の沈着が一部でみとめられる。しまり普通。
ⅪⅡ	黒褐色土層	粘性土。鉄分の沈着が顕著。しまり普通。
ⅪⅢ	灰白色土	粘性土。鉄分の沈着が顕著。しまりあり。粘性強い。
ⅪⅣ	暗灰色土	粘性土に粗砂を多量包含する。鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
ⅪⅤ	灰白色土	粘性土。しまりあり。粘性強い。

第４図　基本層序図

Ⅴ　検出遺構

1　平安時代末期～中世以降

２区から３区中央部で確認したＡｓ－Ｂ層は軽石の一次堆積とみられ、この範囲では比較的良好な堆積が認められたが、１・４区では確認されなかった。ここでは１面目の調査で検出したＡｓ－Ｂ層下水田跡、２面目の調査で調査した当該期の溝跡、井戸跡、土坑について記述する。

１　水田跡

Ａｓ－Ｂ層下水田跡（第５図、第２表、ＰＬ．２）

位置：２区南端から３区北端にかけて検出された。**重複**：なし。**残存状況**：直上に厚さ約４～16㎝の一次堆積とみられるＡｓ－Ｂ軽石層が確認されている。**区画**：７区画が確認された。いずれも区画の一部分であるため、区画全体の規模は不明。**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔の下端幅が 0.40 ～ 0.52 m、東西畦畔が 0.36 ～ 0.56 mである。**水口**：畦畔１の南端が途切れており、これが水口であった可能性がある。**水田面の状態**：全体的になだらかで浅い凹凸がみられる。区画②では耕作痕と足跡が確認された。**遺物**：なし。

２　溝　跡・井戸跡・土坑

Ｗ－５号溝（遺構：第６～８図）

位置：３区及び４区の南側で部分的に検出された。**重複**：３区ではＷ－ 16 号溝と重複し、これを切っている。**形態**：平面形はやや湾曲し、底面の標高は３区北東端部が約 83.6 m、４区西端部が約 83.1 mで西側が低い。断面形はおおむね浅鉢状を呈する。**計測値**:主軸方位はＮ－ 35°～ 52°－Ｅ、４区ではＮ－ 71°－Ｅ、上幅 0.98 ～ 1.17 m、確認面からの深さ 0.42 ～ 0.58 mを測る。**埋没状態**：３区南部の撹乱部分に入る客土である褐色土により人為的に埋め戻されている。現代のビニール等が混入する。**遺物**：中近世の陶磁器、土師器片が出土している。**時期**：埋没状態より、近現代の溝と推測される。

Ｗ－９号溝（遺構：第６・８図）

位置：４区南側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむねＶ字状を呈する。また、底面は平坦な状態からさらに溝状に掘り込まれる。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 66°－Ｅ、検出長 2.10 m、上幅 1.73 ～ 1.77 m、確認面からの深さ 0.95 mを測る。**埋没状態**：主として黒褐色粘質土ブロック、Ｈｒ－ＦＡ洪水土、Ａｓ－Ｂを含む暗褐色土により埋没している。**遺物**:なし。**時期**:埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｗ－ 10 号溝（遺構：第６・８図）

位置：４区南側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむねＶ形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 68°－Ｅ、検出長 2.12 m、上幅 1.16 ～ 1.26 m、確認面からの深さ 0.71 mを測る。**埋没状態**：主として黒褐色粘質土ブロック、Ｈｒ－ＦＡ洪水土、Ａｓ－Ｂを含む暗褐色土により埋没している。**遺物**：陶器、土師器の細片が出土している。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｗ－ 11 号溝（遺構：第６・８図　遺物：第 12 図、第３表、ＰＬ．４）

位置:４区南側にて一部が検出された。**重複**:なし。**形態**:北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。

断面形は浅鉢状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－70°－Ｅ、検出長2.14ｍ、上幅4.20～4.31ｍ、確認面からの深さ0.86ｍを測る。**埋没状態**：主として黒褐色粘質土ブロック、Ｈｒ－ＦＡ洪水土、Ａｓ－Ｂを含む暗褐色土により埋没している。**遺物**:陶器、土師器の細片が出土している。**時期**:埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｗ－16号溝（遺構：第６・７図）

位置：３区南西側にて一部が検出された。**重複**：Ｗ－５・17号溝に切られている。**形態**：北西－南東及び北東－南西方向に走行する溝がほぼ直角に屈曲する。断面形は浅鉢状を呈する。**計測値**：上幅1.03ｍ、確認面からの深さ0.54ｍを測る。**埋没状態**：下層は砂質土と粘質土が互層状をなす自然堆積が認められ、中層より上はＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂを含む土によって埋没している。**遺物**：陶器の破片が出土している。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｗ－17号溝（遺構：第６・７図）

位置：３区南西側にて一部が検出された。**重複**：Ｗ－16号溝と重複し、これを切っている。**形態**：北西－南東及び北東－南西方向に走行する溝がほぼ直角に屈曲する。断面形は浅鉢状を呈する。**計測値**：上幅1.60ｍ、確認面からの深さ0.68～0.74ｍを測る。**埋没状態**：下層は砂質土と粘質土が互層状をなす自然堆積が認められ、中層より上はＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂを含む土によって埋没している。**遺物**：軟質陶器の破片が出土している。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｗ－18号溝（遺構：第６・８図）

位置：４区北側にて一部が検出された。**重複**：Ｗ－19号溝を切っている。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむねＶ字状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－68°－Ｅ、検出長2.41ｍ、上幅0.99～1.14ｍ、確認面からの深さ0.97ｍを測る。**埋没状態**:主として黒褐色粘質土ブロック、Ｈｒ－ＦＡ洪水土、Ａｓ－Ｂを含む暗褐色土により埋没している。**遺物**：後世の混入とみられる須恵器と陶器の細片が出土している。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｉ－１号井戸（遺構：第６・９図、ＰＬ．３）

位置：４区北側にて検出された。**重複**：Ｄ－３号土坑と重複し、これを切っている。**形態**：平面円形、南北に釣瓶用と想定される小ピットが検出されている。壁面は検出面から深さ約40㎝付近まではゆるやかで、それ以下はほぼ垂直に掘り込まれる。深さ約70㎝付近からは内側にオーバーハングする。底面形状は未発掘のため不明である。**計測値**：平面は東西10.4×南北1.48ｍ、深さは掘削を行った面までで0.90ｍを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅻ層に由来する黒褐色粘質土とⅫ層の白色粘質土が堆積し､上部は礫によって人為的に埋め戻されている。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｄ－１号土坑（遺構：第６・７図）

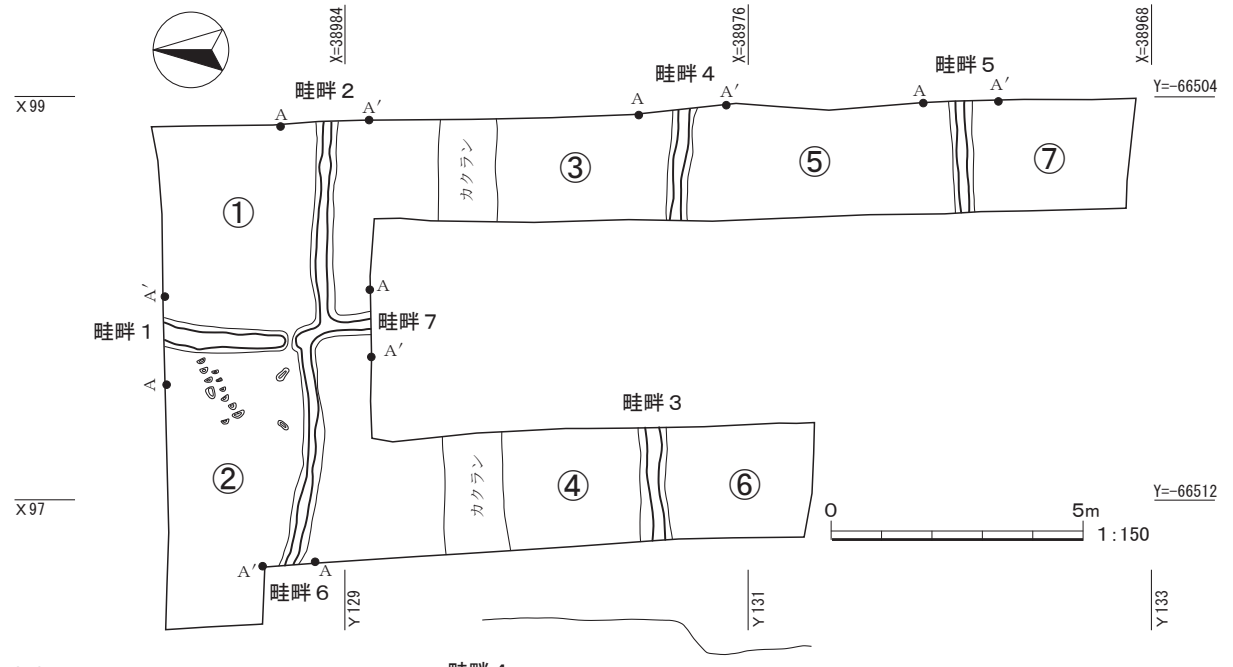
位置：３区南西側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：平面方形と推測され、断面形はおおむね逆台形状を呈する。**計測値**：確認した部分では、平面1.40×0.96ｍ、深さ0.37ｍを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅸ層に由来する灰黄褐色粘質土と黒褐色粘質土により人為的に埋め戻されているものと推測される。**遺物**：土師器の細片が少量出土している。　**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

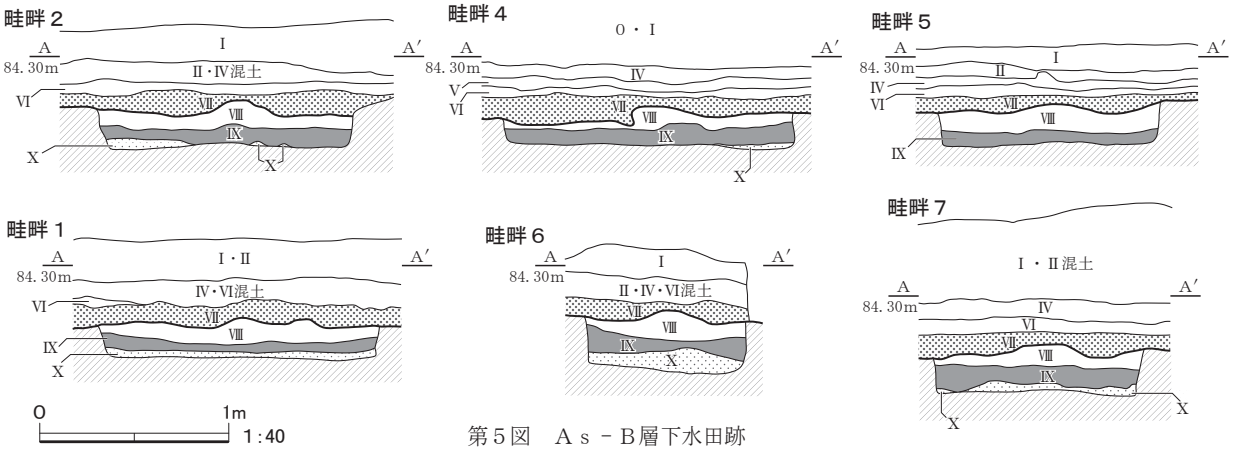
Ｄ－２号土坑（遺構：第６・９図）

位置：４区北側にて検出された。**重複**：なし。**形態**：平面不製円形、底面はほぼ平坦で人頭大の礫８点が敷かれていた。**計測値**：平面 0.70 × 0.60 m、深さ 0.10 mを測る。**埋没状態**：敷石の直下が掘方であり、基本土層Ⅻ層に由来する黒褐色粘質土が礫の間に混入する。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

Ｄ－３号土坑（遺構：第６・９図）

位置：４区北側にて一部が検出された。**重複**：Ｉ－１号井戸に切られている。**形態**：平面楕円形、断面形はU字状を呈する。**計測値**：平面 0.70 × 0.43 m、深さ 0.33 mを測る。**埋没状態**：主としてＡｓ－Ｂを含む基本土層Ⅶ層に由来する黒褐色粘質土とⅫ層以下の白色粘質土により埋没している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。



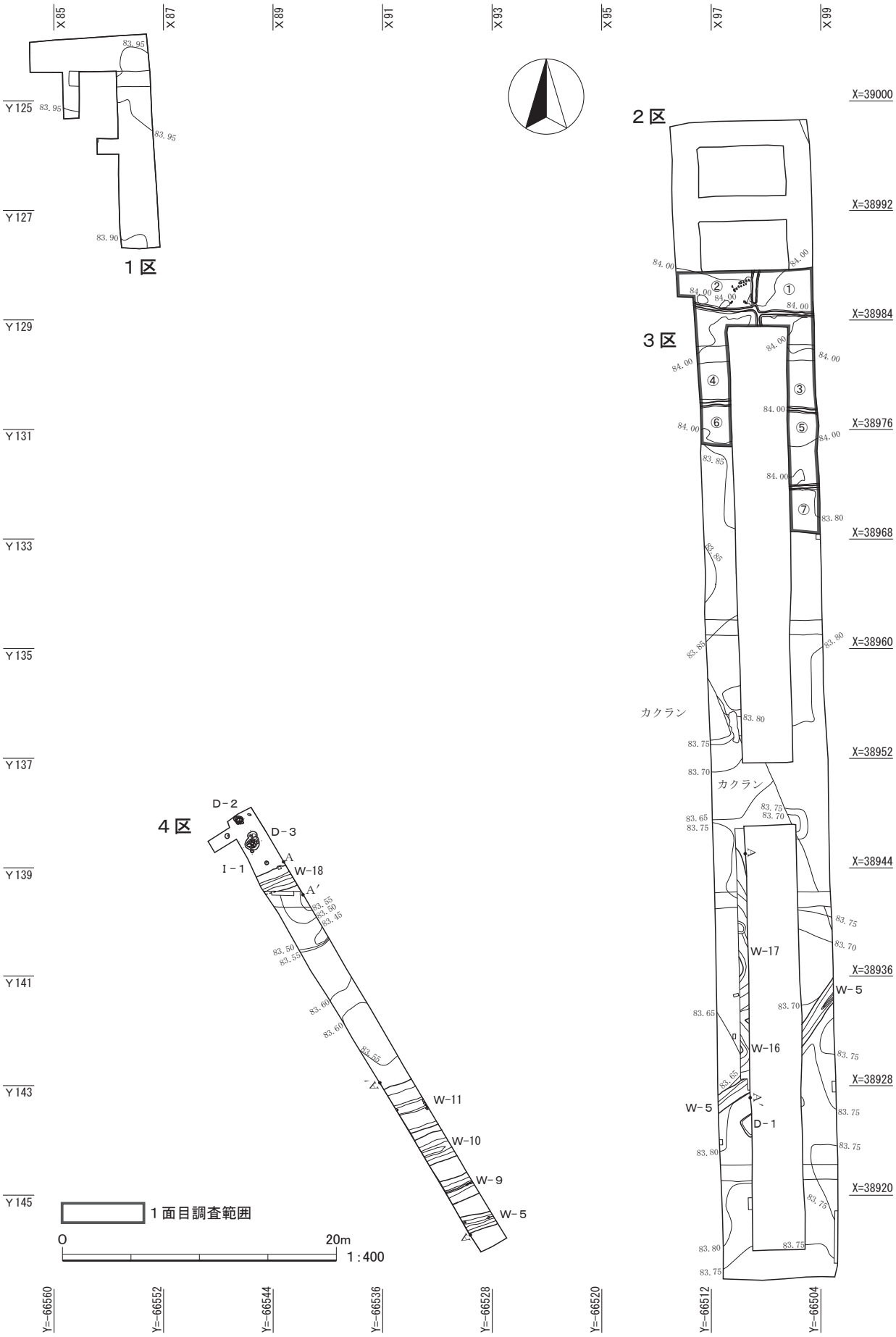


第５図　Ａｓ－Ｂ層下水田跡

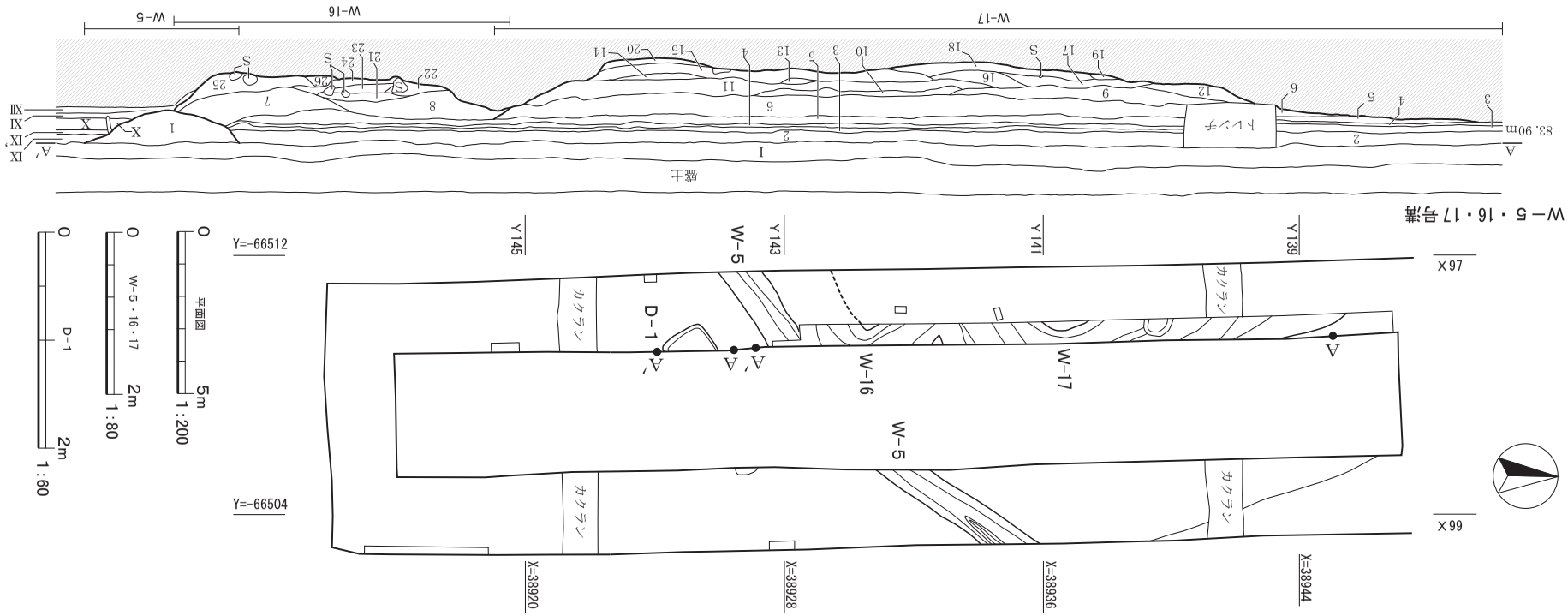
第２表　Ａｓ－Ｂ層下水田計測表

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す．南北畦畔は区画の西側に、東西畦畔は区画の北側に位置するものを指す。( ) は推定又は残存値。

調査区	区画№	面積（㎡）	南北軸（m）	東西軸（m）	田面中央標高（m）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔上端幅（cm）	南北畦畔下端幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔上端幅（cm）	東西畦畔下端幅（cm）
２・３	①	—	(2.45)	—	—	—	4.3～8.2	24～32	40～52	—	—	—
２・３	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
２・３	③	—	(1.34)	(3.99)	(3.99)	—	4.2～6.2	12～20	40～48	5.2～7.2	12～20	40～48
２・３	④	—	—	(4.32)	(4.32)	—	—	—	—	4.7～4.9	16～20	40～48
２・３	⑤	—	—	(2.22)	(2.22)	—	—	—	—	4.2～4.3	12～20	40～48
２・３	⑥	—	—	(2.00)	(2.00)	—	—	—	—	2.5～3.8	20～80	48～56
２・３	⑦	—	—	(2.18)	(2.18)	—	—	—	—	3.4	16～19	36～40



第６図　調査区全体図（平安時代末期～中世以降）

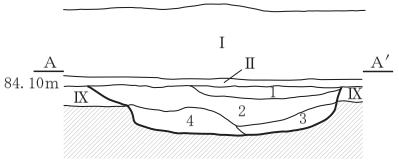


第７図　Ｗ－５・16・17号溝、Ｄ－１号土坑

W－５・16・17

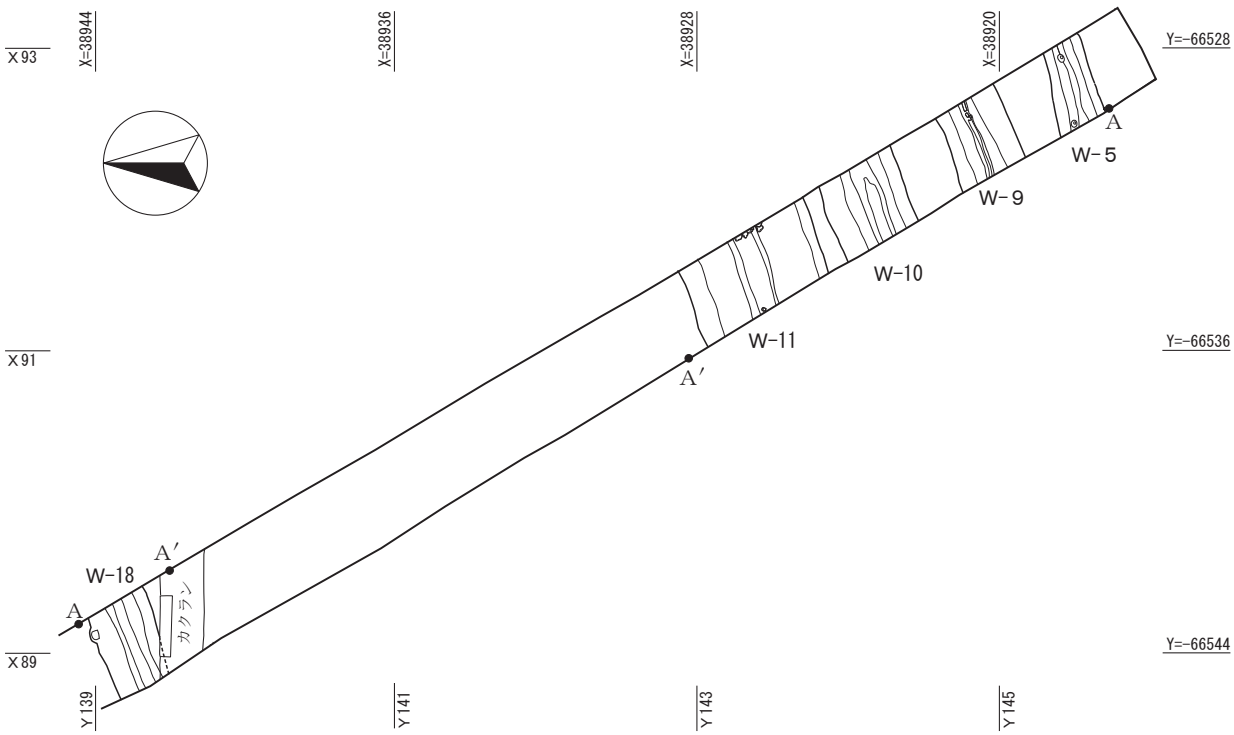
1　にぶい黄褐色土　φ0.1～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量包含する。しまりややあり。粘性ややあり。
2　灰黄褐色土　φ0.3～0.5㎝のHr－ＦＡ軽石粒を微量、鉄分をやや含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
3　にぶい黄褐色土　Ａｓ－Ｂを少量、φ0.3～0.8㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、Hr－ＦＡ洪水土を微量包含する。しまりややあり。粘性ややあり。
4　にぶい黄褐色土　Ａｓ－Ｂを中量、φ0.3～0.8㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。
5　黄褐色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.1～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまり強い。粘性やや弱い。
6　黒褐色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.3～0.5㎝のHr－ＦＡ軽石粒を多量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまり強い。粘性やや弱い。
7　黒褐色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒とHr－ＦＡ洪水土を少量、砂粒、φ1.0～3.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを多量、鉄分を含む。しまり、粘性やや弱い。
8　黒褐色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒とHr－ＦＡ洪水土を微量、砂粒を中量、鉄分を含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9　黒褐色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、Hr－ＦＡ洪水土を微量、φ0.2～4.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまり強い。粘性あり。
10　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂを中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量、砂粒多量、鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性あり。
11　褐灰色土　Ａｓ－Ｂを多量、φ0.2～0.5㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、Hr－ＦＡ洪水土を微量、砂粒多量、鉄分をやや含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
12　褐灰色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を少量、Hr－ＦＡ洪水土を微量、砂粒を中量包含する。しまり強い。粘性強い。
13　灰黄褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、砂粒を多量、鉄分を含む。しまり強い。粘性強い。
14　灰黄褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を中量、砂粒を中量、鉄分を含む。しまりややあり。粘性強い。
15　灰黄褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を少量、砂粒を多量、鉄分をやや含む。しまりあり。粘性弱い。
16　黒褐色土　φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒を少量、Hr－ＦＡ洪水土を少量、砂粒を多量、鉄分を含む。しまり強い。粘性あり。
17　暗褐色土　φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒を少量、Hr－ＦＡ洪水土を微量、砂粒を中量、鉄分を含むしまり強い。粘性あり。
18　黒褐色土　φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒を微量、砂粒を多量、鉄分をやや含む。しまり強い。粘性弱い。
19　黒褐色土　砂粒を多量、鉄分を含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
20　黒褐色土　砂粒を多量、鉄分をやや含む。しまりあり。粘性強い。
21　暗褐色土　Hr－ＦＡ軽石微量とHr－ＦＡ洪水土を微量、砂粒中量、鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
22　灰黄褐色土　粘性土。しまり強い。粘性無し。
23　黒褐色土　砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を微量、黒褐色粘質土を少量、鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性弱い。
24　灰黄褐色土　砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を微量、鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性弱い。
25　灰黄褐色土　砂粒を主体とし、鉄分をやや含む。しまり強い。粘性無し。
26　黒褐色土　砂粒を主体とし、Ⅻ層のブロックを包含する。しまり無し。粘性無し。

Ｄ－１号土坑

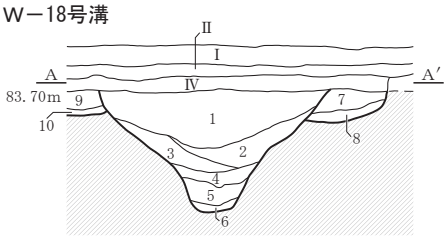


Ｄ－１

1　褐色土　Hr－ＦＡ軽石多量、Hr－ＦＡ洪水土を微量、黒褐色粘質土を微量包含する。しまり強い。粘性弱い。
2　にぶい黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を多量、φ1.0～4.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを中量包含する。しまり強い。粘性あり。
3　灰黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石微量、Hr－ＦＡ洪水土を多量、φ0.5～1.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまりややあり。粘性弱い。
4　灰黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を多量、φ2.0～6.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを中量包含する。しまり強い。粘性あり。



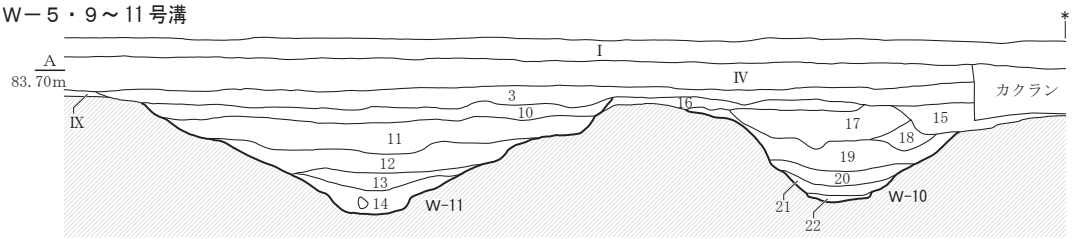
W－18号溝



W－18

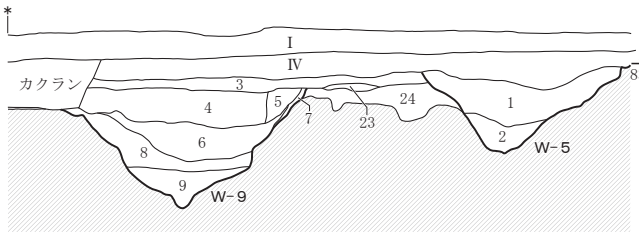
1	暗褐色土	Ａｓ－Ｂを中量、φ0.2 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石粒を多量、Hr－ＦＡ洪水土を中量、φ2.0 ～ 5.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを多量包含する。しまり強い。粘性あり。
2	灰黄褐色土	φ0.1 ～ 0.2 ㎝のHr－ＦＡ軽石粒を微量、砂粒を中量包含。しまりあり。粘性ややあり。
3	褐灰色土	砂粒を微量、φ1.0 ～ 3.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを多量包含する。しまりややあり。粘性あり。
4	黒褐色土	白色粘質土ブロックを少量包含する。しまり強い。粘性強い。
5	灰黄褐色土	砂粒を中量包含する。鉄分を多く含む。しまりあり。粘性無し。
6	黒褐色土	粘性土。しまり強い。粘性強い。
7	褐色土	Hr－ＦＡ洪水土を小量包含する。しまり無し。粘性弱い。(W-19)
8	明黄褐色土	砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまり強い。粘性無し。
9	明黄褐色土	Hr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を多量包含する。しまりややあり。粘性弱い。(W-12)
10	にぶい黄橙色土	砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりやや弱い。粘性弱い。

W－５・９～11号溝

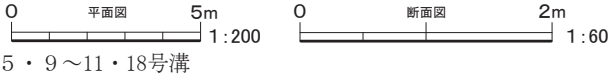


W-５・９～11

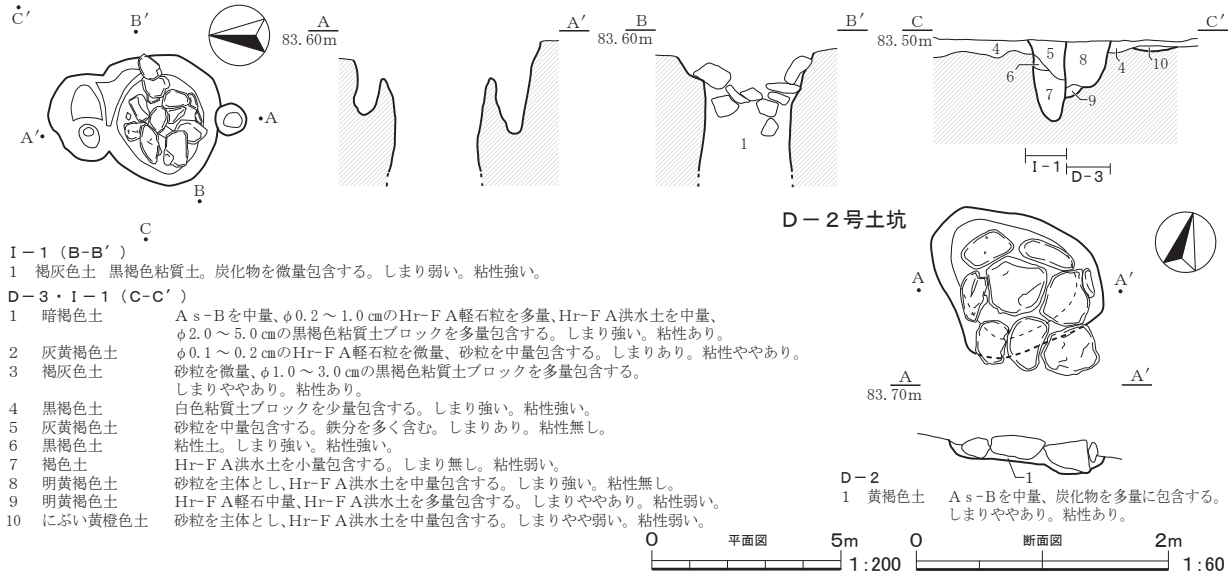
1	褐色土	しまりやや弱い。粘性やや弱い。W－５覆土。
2	灰黄褐色土	砂粒を少量包含する。しまり無し。粘性ややあり。
3	灰黄褐色土	φ0.5 ～ 2.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石を中量包含する。しまり強い。粘性ややあり。
4	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂを多量、φ0.2 ～ 0.5 ㎝のHr－ＦＡ軽石多量、φ0.5 ～ 1.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを微量包含。鉄分をやや含む。しまり強い。粘性ややあり。
5	にぶい黄橙色土	Ａｓ－Ｂを少量、φ0.1 ～ 0.2 ㎝のHr－ＦＡ軽石多量、砂粒を中量包含する。しまりあり。粘性強い。
6	褐灰色土	Ａｓ－Ｂを多量、φ1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石多量包含する。鉄分を含む。しまりあり。粘性弱い。
7	にぶい黄褐色土	砂粒を主体とし、φ0.1 ～ 0.2 ㎝のHr－ＦＡ軽石少量、鉄分をやや含む。しまり弱い。粘性弱い。
8	灰黄褐色土	砂粒を主体とし、φ0.5 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石微量、鉄分を含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
9	褐灰色土	砂粒を主体とし、鉄分を多く含む。しまり弱い。粘性強い。
10	にぶい黄褐色土	φ0.3 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量、φ3.0 ～ 5.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。
11	にぶい黄褐色土	φ0.5 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまりあり。粘性ややあり。
12	暗褐色土	φ0.2 ～ 0.5 ㎝のHr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を少量、φ0.5 ～ 1.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを微量包含する。しまりあり。粘性ややあり。
13	灰黄褐色土	砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまり強い。粘性あり。
14	褐灰色土	砂粒を主体とし、鉄分を含む。しまり強い。粘性強い。
15	灰黄褐色土	φ0.5 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石多量、Hr－ＦＡ洪水土を多量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。



16	灰黄褐色土	φ0.5 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石多量、Hr－ＦＡ洪水土を多量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。
17	灰黄褐色土	φ0.5 ～ 1.0 ㎝のHr－ＦＡ軽石、Hr－ＦＡ洪水土、砂粒を多量、φ2.0 ～ 4.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを微量包含する。鉄分をやや含む。しまりあり。粘性やや弱い。
18	黒褐色土	Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を微量包含する。しまり強い。粘性ややあり。
19	褐灰色土	Hr－ＦＡ軽石微量、砂粒多量、φ1.0 ～ 1.5 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを微量しまり強い。粘性やや弱い。
20	褐灰色土	鉄分を含む。しまりあり。粘性強い。
21	灰黄褐色土	鉄分を含む。しまりやや弱い。粘性あり。
22	褐灰色土	砂粒を中量包含する。しまりあり。粘性強い。
23	にぶい黄橙色土	砂粒を主体とする。しまり強い。粘性無し。
24	にぶい黄橙色土	砂粒を主体とし、φ0.1 ～ 0.2 ㎝のHr－ＦＡ軽石粒、Hr－ＦＡ洪水土を少量、φ1.0 ～ 2.0 ㎝の黒褐色粘質土ブロックを多量包含する。しまり強い。粘性ややあり。



第８図　４区　W－５・９～11・18号溝



第９図　Ｉ－１号井戸、Ｄ－２・３号土坑

２　古墳時代～平安時代

２面目の調査で検出したＨｒ－ＦＡ層下の遺構及び埋没土にＨｒ－ＦＡ層を含む遺構について記述する。

１　水田跡

Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡（第 10・11 図、ＰＬ．４）

位置：３区の東西の２カ所においていずれも一部が検出された。**重複**：西側はＷ－７号溝に切られている。**残存状況**：東西のいずれも畦畔の痕跡が平面的に確認されるにとどまり、起伏の程度は認識できない。**地形**：北から南へ緩傾斜しており、東西方向には明瞭な傾斜はみられない。**区画**：17 区画が確認された。いずれも区画の一部分であるため、区画全体の規模は不明である。**畦畔**：小畦畔のみである。下端幅は南北畦畔 0.31 ～ 0.49 ｍ、東西畦畔は残存値で 0.29 ～ 0.47 ｍを測る。**水口**：確認されなかった。**遺物**：なし。

２　溝　跡

Ｗ－１号溝（第 10・11 図）

位置：３区南東側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北西－南東方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は碗形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 40° －Ｗ、検出長 3.96 ｍ、上幅 0.24 ～ 0.34 ｍ、確認面からの深さ 0.12 ｍを測る。**埋没状態**：主としてⅨ層に由来するとみられる暗褐色土が堆積している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－２号溝（第 10・11 図）

位置：３区南東側にて一部が検出された。**重複**：Ｗ－３号溝と重複し、これを切っている。**形態**：北西－南東方向に走行し、底面は南東側が低い。断面形はおおむね浅い皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 37° －Ｗ、検出長 3.23 ｍ、上幅 0.64 ～ 0.92 ｍ、確認面からの深さ 0.28 ｍを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅸ・Ⅹ層に由来する灰黄褐色土、黒褐色土が堆積している。**遺物**：混入とみられる人物埴輪の美豆良が出土した。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－３号溝（遺構：第 10・11 図、ＰＬ．４）

位置：３区南東側にて一部が検出された。**重複**：Ｗ－２号溝に切られている。**形態**：北東－南西方向に走行し、

底面は北東側が低い。断面形はおおむね逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－48°－Ｅ、検出長2.02ｍ、上幅0.45～0.52ｍ、確認面からの深さ0.14～0.19ｍを測る。**埋没状態**：主として黒褐色土を含む灰黄褐色砂質土が堆積している。一部に堀り直された形跡が認められる。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－４号溝（遺構：第10・11図）

位置：３区南西側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむね逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－47°－Ｅ、検出長2.86ｍ、上幅0.52～0.57ｍ、確認面からの深さ0.24ｍを測る。**埋没状態**：主として黒褐色土を含む灰黄褐色砂質土が堆積している。形態と埋没状態からＷ－３号溝と同一の溝と推測される。**遺物**：土師器の細片が出土している。　**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－６号溝（遺構：第10・11図）

位置：３区北西側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面は南西側がやや低い。断面形は碗形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－54°－Ｅ、検出長2.78ｍ、上幅0.29～0.33ｍ、確認面からの深さ0.15ｍを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅸ層に由来するにぶい黄褐色土が堆積している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－７号溝（遺構：第10・11図）

位置：３区中央にて一部が検出された。**重複**：Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡と重複し、これを切っている。**形態**：東西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむね碗形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－85°－Ｗ、検出長2.34ｍ、上幅0.19～0.29ｍ、確認面からの深さ0.08ｍを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅸ層に由来するにぶい黄褐色土が堆積している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－８号溝（遺構：第10・11図、ＰＬ．４）

位置：２区南側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：おおむね東西方向に走行し、底面は東側がやや低い。断面形は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－79～90°－Ｗ、検出長10.05ｍ、上幅0.46～0.57ｍ、確認面からの深さ0.22ｍを測る。**埋没状態**：灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が、覆土上位には混入物の少ないＨｒ－ＦＡが堆積している。形態と埋没状態からＷ－14号溝と同一の溝と推測される。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期の溝と推測される。

Ｗ－12号溝（遺構：第10図）

位置：４区北側にて一部が検出された。**重複**：なし。なお、隣接するＷ－13号溝とは重複しない。**形態**：北西－南東方向に走行し、底面は北西側が低い。断面形は浅い皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－30°－Ｗ、検出長1.44ｍ、上幅0.14～0.23ｍ、確認面からの深さ0.04ｍを測る。**埋没状態**：主として基本土層Ⅸ層に由来する褐色土が堆積している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

Ｗ－13号溝（遺構：第10図）

位置：４区北側にて一部が検出された。**重複**：なし。なお、隣接するＷ－12号溝とは重複しない。**形態**：北西－南東方向に走行し、底面は北西側がやや低い。断面形は浅い皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－38°－Ｗ、

検出長 1.79 m、上幅 0.30 ～ 0.34 m、確認面からの深さ 0.08 mを測る。**埋没状態**：基本土層Ⅸ層に由来する褐色土が堆積している。**遺物**：土師器の破片が出土している。　**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W－14 号溝（遺構：第 10・11 図、ＰＬ．４）

位置：１区南部にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：おおむね東西方向に走行し、底面は東側が低い。断面形は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 78°－W、検出長 2.92 m、上幅 0.43 ～ 0.56 m、確認面からの深さ 0.35 mを測る。**埋没状態**:灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が認められ、上位は基本土層Ⅱ・Ⅳ・Ⅸ層が撹拌された土によって切られている。形態と埋没状態からW－８号溝と同一の溝と推測される。**遺物**:土師器の細片が出土している。　**時期**：埋没状態より、古墳時代後期の溝と推測される。

W－15 号溝（遺構：第 10・11 図）

位置：１区南側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：おおむね東西方向に走行し、底面は東側が低い。断面形はおおむね逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 80°－W、検出長 2.83 m、上幅 0.28 ～ 0.36 m、確認面からの深さ 0.23 mを測る。**埋没状態**：灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が認められ、上位は基本土層Ⅱ・Ⅳ・Ⅸ層が撹拌された土によって切られている。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W－19 号溝（遺構：第 10・11 図）

位置：４区南側にて一部が検出された。**重複**：W－ 18 号溝に切られている。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は片側のみ確認でき、おおむねU字状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 59°－Ｅ、検出長 0.63 m、上幅 0.51 m、確認面からの深さ 0.27 mを測る。**埋没状態**：主として基本土層Ⅸ層に由来する褐色土が堆積している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W－20 号溝（遺構：10 図）

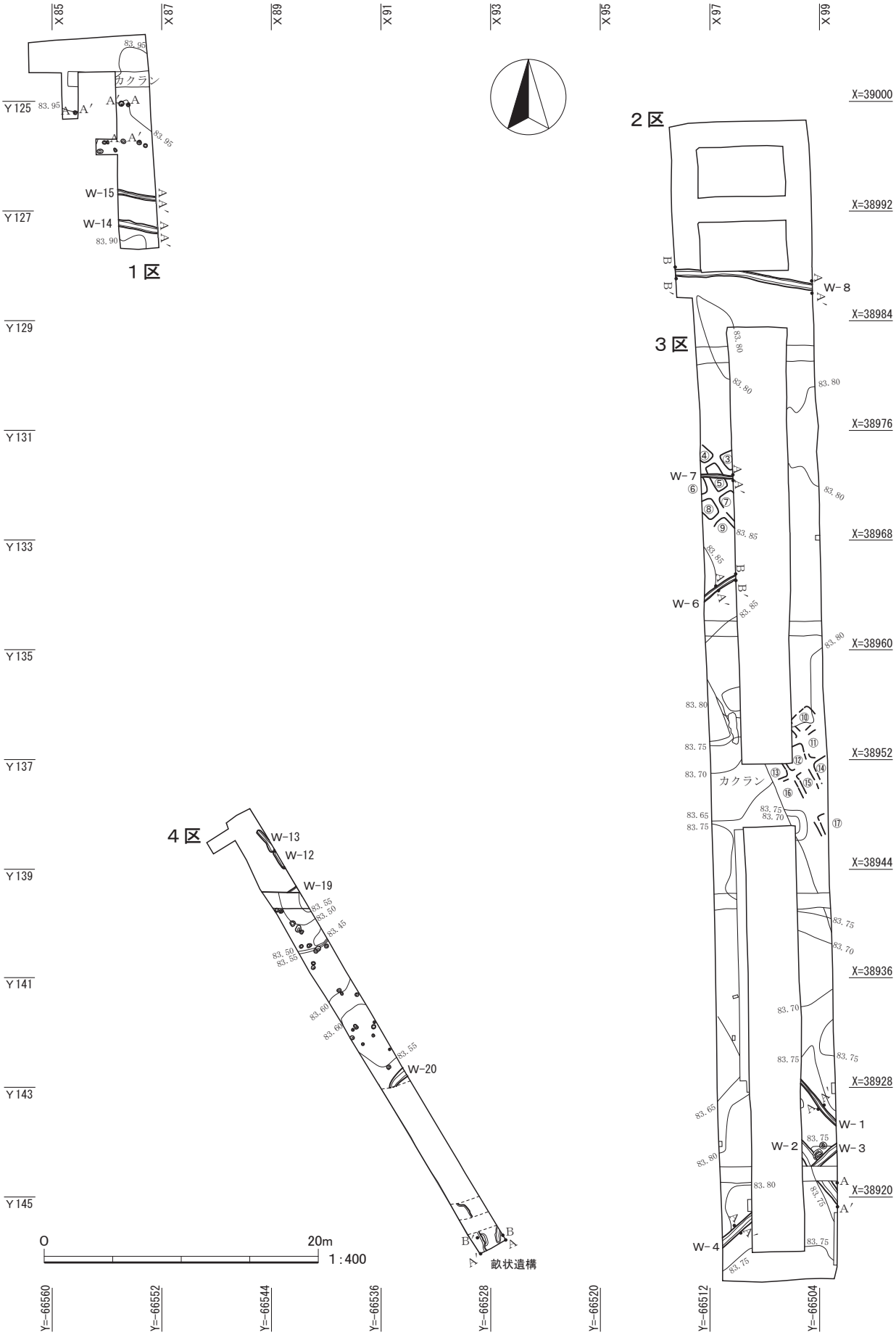
位置：４区中央部にて一部が検出された。**重複**：W－ 11 号溝に切られている。**形態**：北東－南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は碗形状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 45°－Ｅ、検出長 1.39 m、上幅 0.49 ～ 0.69 m、確認面からの深さ 0.17 mを測る。**埋没状態**:基本土層Ⅸ層に由来する灰黄褐色土が堆積している。**遺物**:なし。**時期**：埋没状態より、Ｈｒ－ＦＡ降下前の溝と推測される。

３　ピット（遺構：10 図）

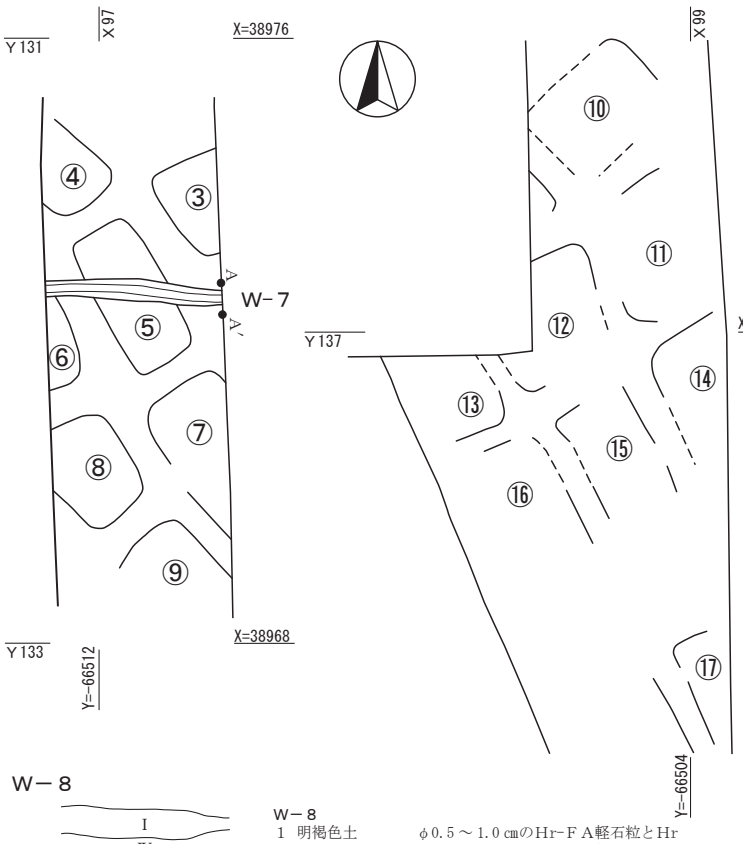
ピットは１区で 10 基、４区で 24 基、合計 34 基が検出された。上面幅は 17 ～ 50 ㎝、深さは６～ 40 ㎝で、形状は円形または楕円形を呈する。各ピットの配置に掘立柱建物跡を構成するような状況は認められなかった。埋没土はおおむねＨｒ－ＦＡブロックを含む褐色土であり、Ａｓ－Ｂ軽石を含まないことから、古墳時代～平安時代と推定されるが明確な時期は不明である。

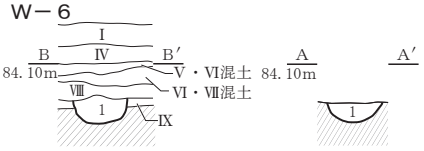
４　畝状遺構（第 10・11 図、ＰＬ．４）

位置：４区の南端で一部が検出された。　**重複**：W－５号・９号溝に切られている。　**形態**：東西が畝状に盛り上がり、中央部は外側を掘り込んだ土（Ⅺ・Ⅻ層）で埋め戻している。**埋没状態**：Ⅸ’層を主体とする灰黄褐色土で埋没している。**遺物**：なし。**時期**：埋没状態から、古墳時代後期の遺構と推定される。

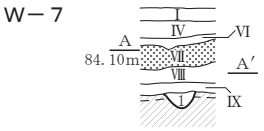


第10図　調査区全体図（古墳時代～平安時代）

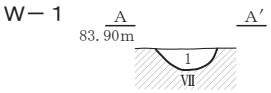




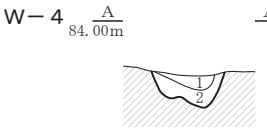
1　にぶい黄褐色土　Hr-FA洪水土多量、褐灰色粘質土を中量、暗褐色土ブロックを少量、砂粒を中量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。



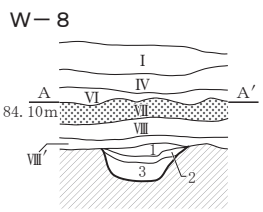
1　にぶい黄褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまり弱い。粘性弱い。



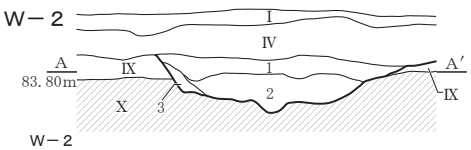
1　暗褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を中量、黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまりあり。粘性強い。



1　暗褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を微量、シルト、鉄分を多く含む。しまり弱い。粘性弱い。
2　黒褐色土　シルトを少量、黒褐色粘質土ブロックを中量包含。しまりあり。粘性強い。

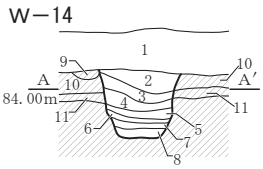


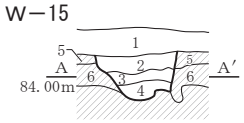
W－8
1　明褐色土　φ0.5～1.0㎝のHr－ＦＡ軽石粒とHr－ＦＡ洪水土を中量、砂粒多量、鉄分をやや含む。しまり弱い。粘性無し。
2　黒褐色土　粘性土。しまりややあり。粘性あり。
3　にぶい黄橙色土　砂粒を主体とし、鉄分をやや含む。しまりややあり。粘性無し。



W－2
1　褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性あり。
2　黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石微量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまりあり。粘性ややあり。
3　にぶい黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石微量、Hr－ＦＡ洪水土を少量、黒褐色粘質土ブロックを中量包含する。しまりあり。粘性あり。

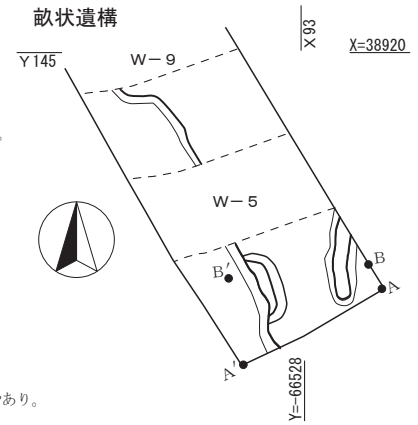
W－14
1　にぶい黄橙色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性あり。
2　黒褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまり強い。粘性やや弱い。
3　褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石、Hr－ＦＡ洪水土を多量包含する。しまり強い。粘性弱い。
4　にぶい黄褐色土　砂質土。しまり強い。粘性ややあり。
5　にぶい黄褐色土　砂粒中量包含する。しまりあり。粘性無し。
6　灰黄褐色土　砂粒中量、黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまりあり。粘性無し。
7　にぶい黄橙色土　砂粒を中量包含する。しまりややあり。粘性無し。
8　褐灰色土　砂粒を多量包含する。しまりややあり。粘性ややあり。
9　にぶい黄橙色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を多量包含する。しまり強い。粘性弱い。
10　にぶい黄橙色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりややあり。粘性やや弱い。
11　灰黄褐色土　砂質土。しまり強い。粘性ややあり。



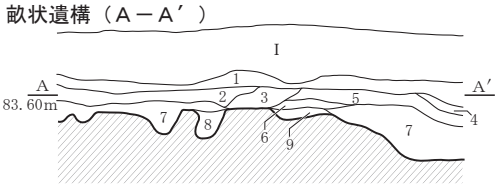


W－15
1　にぶい黄橙色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性あり。
2　黒褐色土　φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまり強い。粘性やや弱い。
3　にぶい黄橙色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性あり。
4　にぶい黄橙色土　砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまりあり。粘性無し。
5　にぶい黄橙色土　Hr－ＦＡ軽石中量、Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。
6　灰黄褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を少量包含する。しまり強い。粘性ややあり。

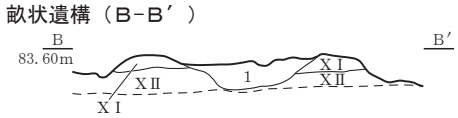
畝状遺構

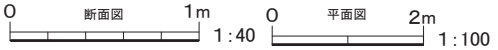


畝状遺構（Ａ－Ａ′）



畝状遺構（Ｂ-Ｂ′）





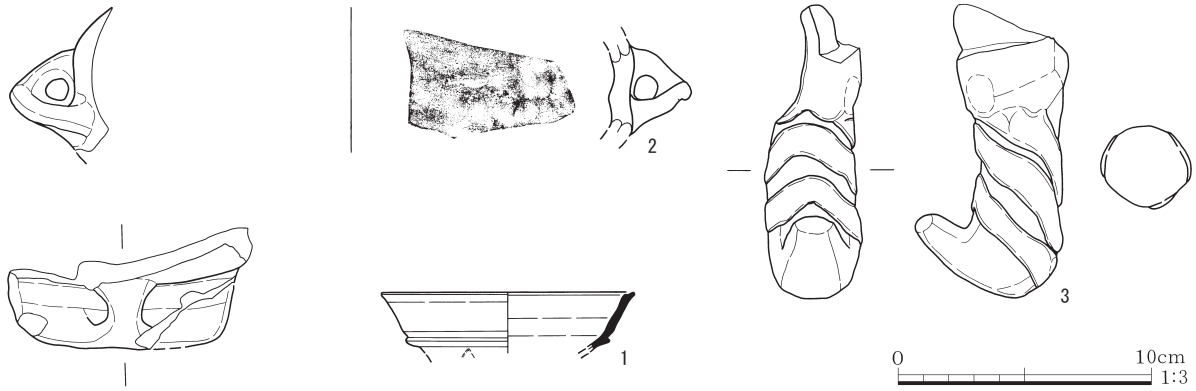
畝状畦畔（Ａ－Ａ′）
1　褐灰色土　Ａｓ-Ｂを少量、φ0.1～0.2㎝のHr－ＦＡ軽石粒を少量、砂粒中量、鉄分をやや含む。しまりあり。粘性やや弱い。
2　にぶい黄褐色土　砂粒を主体とする。しまりあり。粘性弱い。
3　黒褐色土　砂粒少量、φ3.0～4.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを微量包含する。しまり強い。粘性あり。
4　灰黄褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を中量、鉄分をやや含む。しまり強い。粘性ややあり。
5　にぶい黄褐色土　φ0.2～0.3㎝のHr－ＦＡ軽石粒とHr－ＦＡ洪水土を微量包含する。鉄分をやや含む。しまり強い。粘性無し。
6　にぶい黄橙色土　砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を中量、鉄分を微量に含む。しまりあり。粘性ややあり。
7　にぶい黄橙色土　砂粒を主体とし、Hr－ＦＡ洪水土を中量包含する。しまりあり。粘性無し。
8　灰黄褐色土　Hr－ＦＡ洪水土を中量、砂粒中量、φ1.0～2.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを少量包含する。しまりあり。粘性無し。
9　にぶい黄褐色土　Hr－ＦＡ軽石少量、Hr－ＦＡ洪水土・Ａｓ-Ｃを中量、φ2.0～5.0㎝の黒褐色粘質土ブロックを多量包含する。しまりあり。粘性やや弱い。

畝状遺構（Ｂ－Ｂ′）
1　にぶい黄褐色土　X層・XI層のブロック中量、黄橙色砂粒を多量に包含。しまりややあり。粘性弱い。

第11図　Hr－ＦＡ層下水田跡（３区）、Ｗ－１・２・４～８・14・15号溝、畝状遺構

Ⅵ　出土遺物

１は須恵器の甕の口縁部片で４区のⅠ－１号井戸、Ｄ－２・３号土坑周辺に堆積する遺物包含層から出土した。２はW－ 11 号溝から出土した釜形土器の破片である。３はW－２号溝から出土した男子人物埴輪の美豆良である。なお、朝倉・広瀬古墳群とは２㎞ほどの距離があり、近隣でも古墳は確認されていない。



第 12 図　出土遺物実測図

第３表　出土遺物観察表

	遺構名	器　種	法量(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法等	備　考
1	４区 遺物包含層	須恵器 甕	口径：10.0	①緻密　②堅緻 ③灰(N6/)	外面：ロクロ整形。櫛描波条文の一部が残存する。 内面：ロクロ整形。	口縁部 1/8
2	W-11	軟質陶器 釜形土器	外耳部内径： (20.4)	①細砂粒・白色粒 ②還元炎焼成 ③灰 (7.5Y5/1)	外面：板状の「火よけ」の上部に穿孔のある把手。 内面：ヨコナデ、指頭圧痕あり。	外耳部片
3	W-２	埴輪 美豆良	長さ：11.5	①細砂粒・白色粒・石英 ②良好　③橙(5YR6/8)	粘土紐を螺旋状に巻きつける。	左側の美豆良

Ⅶ　まとめ

朝倉工業団地遺跡群では、これまで６度にわたる発掘調査が実施されてきた。これまでの調査成果をふまえつつ朝倉工業団地遺跡群№.６の調査結果を概括しておく。

今回の調査では、主に中世以降の溝跡・井戸跡・土坑、平安時代末期のＡｓ－Ｂ層下水田跡、古墳時代のＨｒ－ＦＡ層下水田跡、古墳時代～平安時代の溝跡等を確認した。

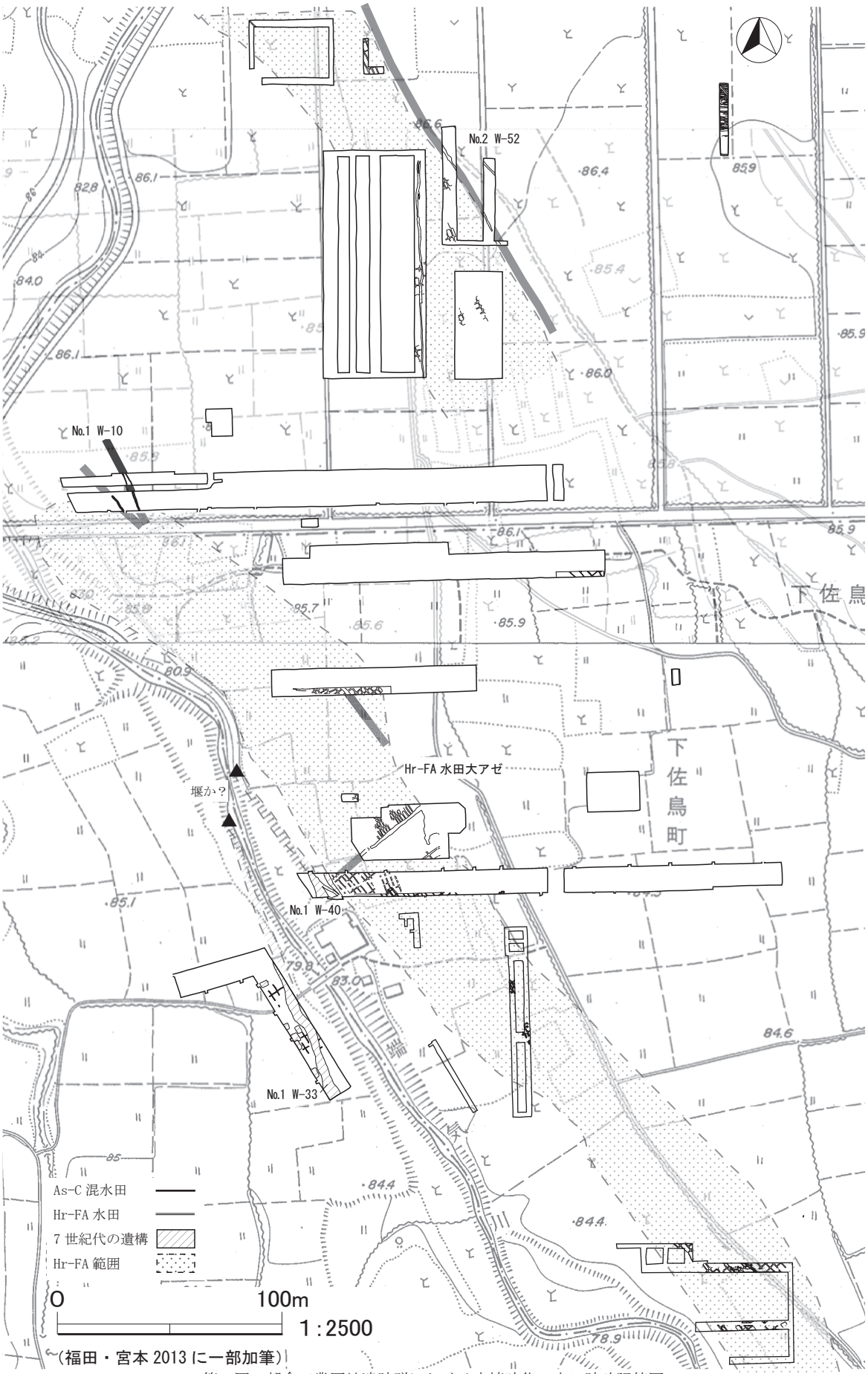
中世以降の遺構は、３・４区で大規模な堀跡（W－９～ 11・16・17・18）がみつかった。走行方向や規模等を比較すると、W－９とW－ 16、W－ 11 とW－ 17 は同一の堀跡である可能性が高い。このうちW－ 16 とW－ 17 は、ほぼ同様の主軸方向を持つコーナー部分であること、W－ 16 とW－ 17 の遺構の切り合い関係から、堀の区画を北側に移動して造り変えた可能性がある。これらは本遺跡群№.２で確認された環濠屋敷跡と同様の性格が想定される。４区で検出した井戸跡（Ⅰ－１号井戸）や土坑（Ｄ－２・３号土坑）も屋敷跡に伴う可能性が高い。

平安時代末期のＡｓ－Ｂ層下水田跡は、２・３区で確認された。Ａｓ－Ｂ層下水田跡は本遺跡群№.１・２・４・５の各地点で確認されており、今回の調査で南北－東西方向の条里地割に沿った水田区画は№.６の北側まで展開していたことが分かった。

古墳時代のＨｒ－ＦＡ層下水田跡は、３区において畦畔の痕跡のみの確認となったが、北西から南東方向の主軸に沿った区画の水田跡であることが分かった。Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡は本遺跡群№.１～６の各地点で確認されており、古墳時代の水田区画はおおよそ同様の主軸方向で広範囲に展開していたことが裏付けられた。

参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群№.１』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010『南部拠点地区遺跡群№.５』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2011『南部拠点地区遺跡群№.６』
前橋市教育委員会 2011『朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査報告書』
前橋市教育委員会 2012『朝倉工業団地遺跡群』
前橋市教育委員会 2012『朝倉工業団地遺跡群№.３』
前橋市教育委員会 2012『朝倉工業団地遺跡群№.２』
前橋市教育委員会 2013『朝倉工業団地遺跡群№.４』
前橋市教育委員会 2013『朝倉工業団地遺跡群№.５』
前橋市教育委員会 2013『上佐鳥中原前Ⅲ遺跡』
前橋市教育委員会 2013『朝倉・広瀬古墳群』



第13図　朝倉工業団地遺跡群における古墳時代の水田跡確認範囲

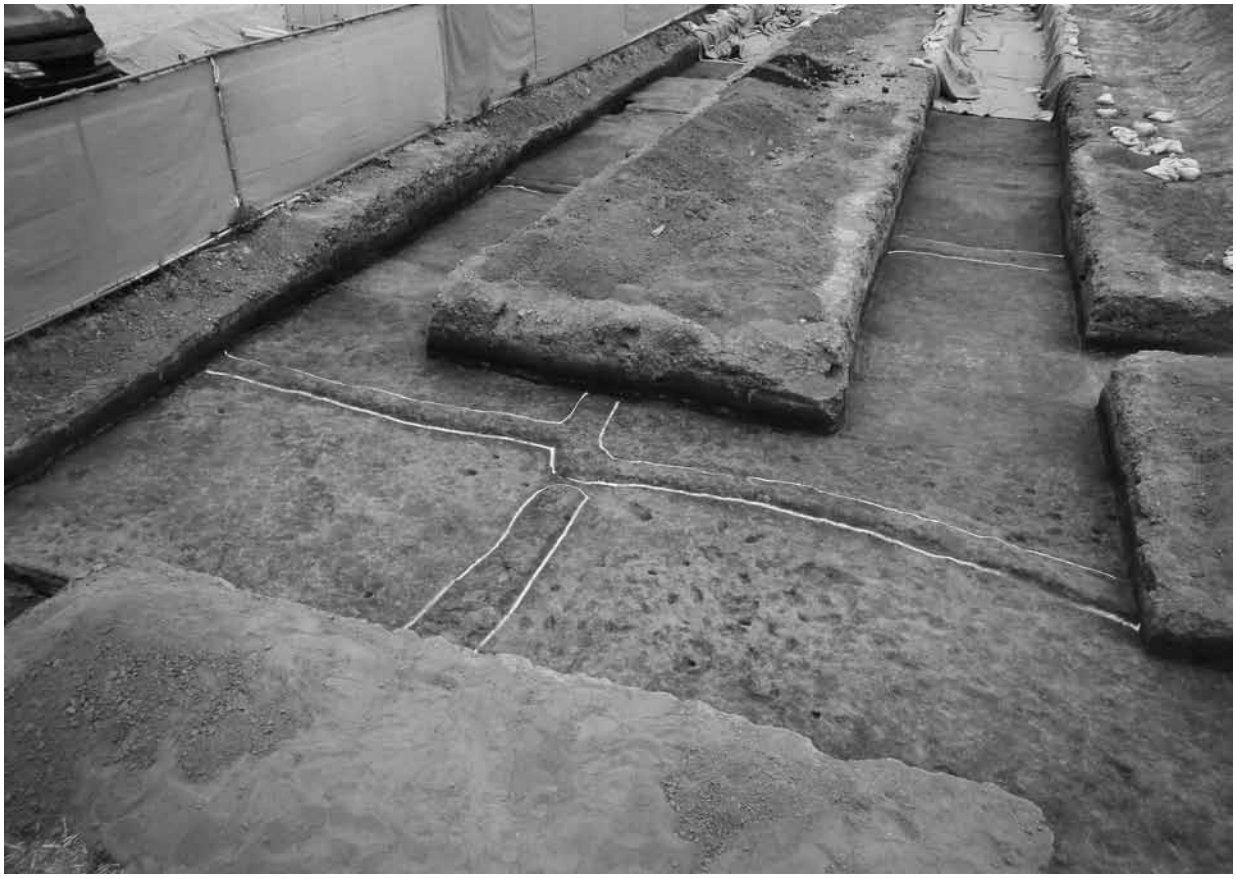
写　真　図　版

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　畦畔検出作業

調査地と端気川（南西から）

調査区全景（左が北）

ＰＬ．２



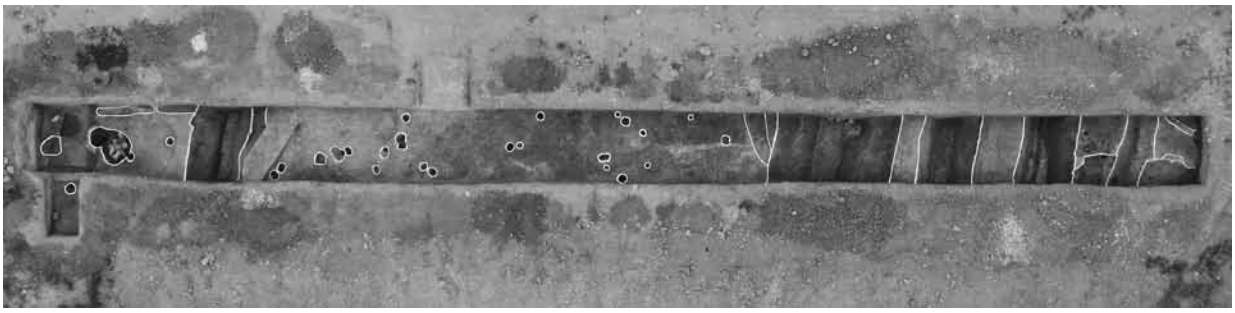
Ａｓ－Ｂ層下水田跡　全景（２・３区、手前が北）

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　区画①～④（東から）

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　区画①②間の水口（南西から）

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　畦畔２　土層断面（西から）

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　畦畔４　土層断面（西から）



４区　全景（左下が北）

Ｉ－１号井戸、Ｄ－３号土坑（東から）

Ｗ－９号溝　全景（東から）

Ｗ－ 11 号溝　全景（東から）

Ｗ－ 18 号溝　全景（東から）

２・３区　全景（左が北）

ＰＬ．４

Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡　全景（南西から）

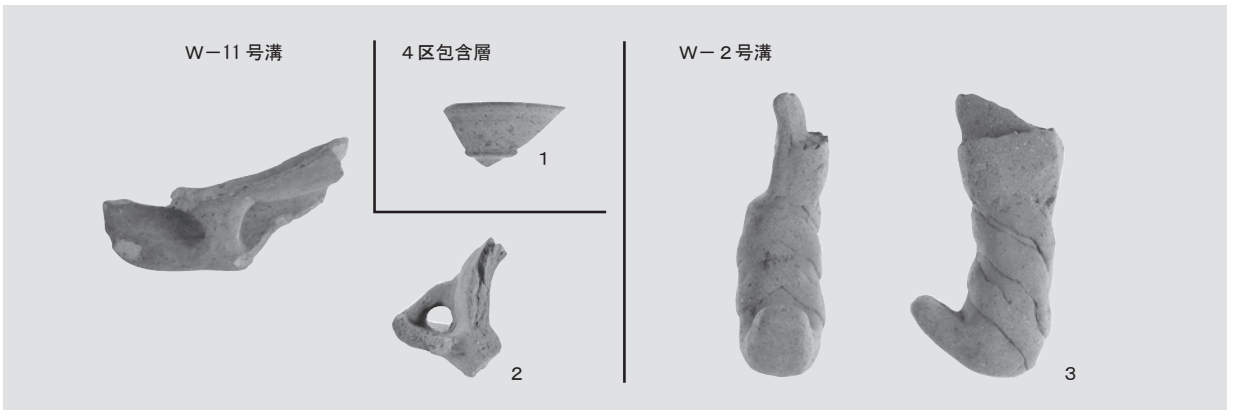
Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡　全景（南から）

Ｗ－８号溝　全景（西から）

Ｗ－８号溝　土層断面　Ｂ－Ｂ’（東から）

Ｗ－３号溝　全景（西から）

畝状遺構（北から）



出土遺物

抄　　録

ふりがな	あさくらこうぎょうだんちいせきぐん　なんばーろく
書　名	朝倉工業団地遺跡群№.６
副書名	恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	
編著者名	福田貫之　小此木真理
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　　TEL　027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒 371-0018　群馬県前橋市三俣町２-10- ２　　TEL　027-231-9531
発行年月日	西暦 2013 年 9 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（世界測地系）				
朝倉工業団地遺跡群№.６	群馬県前橋市下佐鳥町1003番2	10201	00805 (24G79)	36° 20′ 55″	139° 05′ 32″	20130520 ～ 20130614	652 ㎡	倉庫建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業団地遺跡群№.６	生産跡	古墳時代	Ｈｒ－ＦＡ層下畠跡・水田跡・溝跡	古墳時代前期・中期の土師器	古墳時代の畠跡・水田跡を検出。
		平安時代末	Ａｓ－Ｂ層下水田跡・溝跡		平安時代末期の水田跡を検出。
	環濠屋敷跡か	中世以降	井戸跡・溝跡・土坑跡	中・近世の陶磁器	

朝倉工業団地遺跡群№6

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成25年9月27日　印刷
平成25年9月30日　発行
編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／前橋市教育委員会
群馬県前橋市三俣町２-10- ２
印刷／朝日印刷工業株式会社